八鹿青渓

貫徹　慎独　創造

養父市立八鹿青渓中学校 校報
（令和5年12月5日） 第23号

八鹿青渓中 HP

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青渓っ子の育成」

「学力」とはどういう力・・・？

校報第7号（令和5年6月16日発行）で「学力」について説明させていただきましたが、2学期の終わりが近づいていますので、あらためて「学力」、あるいは「評価」や「評定」について考えてみましょう。

学校は、子どもたちの学力向上をめざして日々授業を行っていますが、この「学力」というのは、いったいどういう力のことを言うのでしょうか？日本では、次の3つを“学力”として学校教育法という法律で規定しています。

①基礎的・基本的な知識および技能
②思考力・判断力・表現力等
③主体的に学習に取り組む態度

以上を、「学力の3要素」とも呼び、教師たちはこの3つを向上させるために授業を展開しています。まず①ですが、これは「y=ax+b」「I am a boy」「徳川家康が江戸幕府を開く」「水=H_2O」などの知識や理科の実験、音楽の歌唱、保健体育のマット運動等の技能を指します。どちらかと言えば、“インプット”する学習で得る力というイメージですね。いっぽう②は、①を活用してさらに深く考えたり、どうしようか判断したり、自らの考えを表現したりする力を指します。どちらかと言えば、“アウトプット”する学習で得る力のイメージということになりますね。そして、③は、①や②を得るために粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整したりする態度を指します。①②③は常に関連しあって成長していきますので、いずれかの力だけが突出するということはありません。

さて、今年度の八鹿青渓中学校では「指導と評価の一体化のさらなる深化」をテーマにして授業づくりに取り組んでいます。これはけっして定期テストだけで学習の成果を評価するのではなく、日頃の授業の中でも①②③を評価規準（めざすべき目標）や評価基準（目標に対する到達度）に従って評価していく、そして、その結果を生徒にフィードバックするだけではなく、教師自らの授業を改善していくための材料にするということをめざしているのです。授業→評価→授業→評価→授業・・・・のイメージですね。この評価の積み重ねが学期末の「評定（5・4・3・2・1）」につながり、通知票によって保護者の皆様のもとへ届きます。いっぽう、教師は「評価」や「評定」をそれ以降の自らの授業改善のために活用します。要するに、「評価」や「評定」は、生徒に対するものであるだけではなく、教師に対するものでもあるのです。

さて、生徒の「学力」の向上は、教師にとって大きな仕事であることは間違いありませんが、各ご家庭の教育力が「学力」に大きな影響を与えていることは言うまでもありません。「規則正しい生活」「規範意識」「読書習慣」などが「学力」に関係しているとよく叫ばれる中、最近ではゲームやスマホにかける時間が長すぎることによる学力低下が大きな課題になっています。これらについては各ご家庭が主になって解決していく課題であるとご認識願います。

道徳科について

かつて、「道徳の時間」は教科の授業ではありませんでした。しかも、評価も行わないことになっていました。ところが、いじめ事案が大きく社会問題化する中で、平成31年度より「道徳の時間」が教科化され、「特別の教科　道徳」として生まれ変わりました。そして、今では「道徳科」と呼び、年間35時間の授業時数をきちんと確保し、他の教科と同じように「評価」をすることになっています。ここでは、その「道徳科」あるいは「道徳科の評価」について考えてみましょう。

まずは、「道徳科」のめざしているものを確認します。

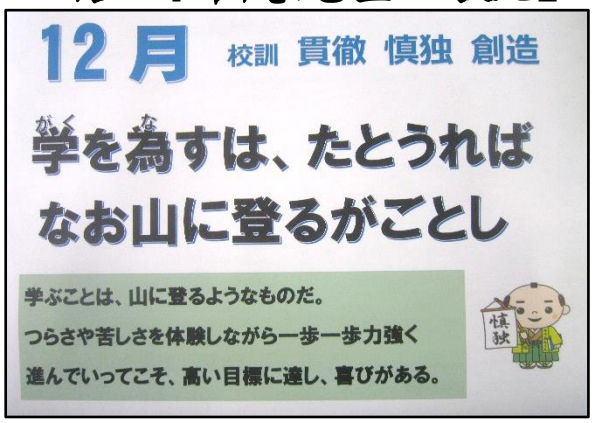
よりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力・道徳的心情・道徳的実践意欲と態度）を養うこと。

しかしながら、生徒一人一人の道徳性が育ったかどうかは容易には分かりません。というのは、「道徳性＝心」であり、そもそも心というものは見えにくいものであるからです。また、人の心の良し悪しを評価するなどということが正しいことかどうかにも疑問を覚えます。したがって、「道徳科の評価」は以下の考えにしたがって行います。

生徒の道徳性そのものを評価するのではなく、“道徳性に係る成長”の部分を評価する。

“道徳性に係る成長”とは難しい表現ですが、道徳性に関係する成長、つまり、生徒一人一人が道徳科の授業の中で、自らの道徳性を育てるためにどのような努力をしたかを評価すると言えば分かりやすくなります。具体的には、道徳科の中での生徒自身の学習状況を示したり、生徒自身の振り返りや感想等から一人一人にどんな学びがあったか等を示したりします。なお、八鹿青渓中学校では毎学期の通知票にて道徳科の評価をお示しします。

12月の「草庵先生の教え」



12月の「草庵先生の教え」は「学を為すは、たとうれば山に登るがごとし」です。「学ぶことは、たとえるならば山に登るようなものだ。つらさや苦しさを体験しながら一歩一歩力強く進んでいってこそ、高い目標に達し、喜びもある。」という意味です。たしかに、学ぶことは苦しさを伴います。時には悔しさすら感じることもあります。しかしながら、少しずつ少しずつ学びの歩を進めることにより目標に近づきますし、目標を達成したときの喜びはひとしおです。本校の生徒もこの教えを念頭に学習しています。

年末年始の学校業務

年末年始の八鹿青渓中学校学校業務ですが、12月29日（金）～1月3日（水）を養父市小・中学校一斉学校閉庁日のためお休みとします。また、それ以外の日も教職員の年次有給休暇取得を強く奨励をしていますので、冬季休業期間中に学校へご連絡いただいても不在の場合が多いということをあらかじめご了承ください。

なお、緊急の連絡がある場合は、養父市教育委員会こども学び課までお願いします。（午前8：30～午後5：15）